

神戸の統計を調べる

参考図書 (reference book) とは

特定の知識や情報について調べることができるものを参考図書とよんでいます。小説などとは違い、必要なところだけ読めば用が足りる、たとえば、事典・辞典・図鑑・年鑑・便覧・白書などです。



『神戸市統計書』

神戸市企画調整局企画課編 神戸市 1907年～

人口、気象、産業、文化など各分野にわたって、神戸市に関係する基本的な統計を収録しています。幅広く重要な統計を集めているので、概略を知るのに便利です。各統計表の右上に出所機関が、左下に出典が記載されています。より詳しく調べたいときは、参照してください。

中央図書館では、第1回明治38年(1907年刊行)から所蔵しており(一部欠号あり)、明治、大正など昔の統計を探す場合にも役立ちます。

神戸市のホームページでも、平成24年度版以降が「神戸の統計」で公開されています。他の統計や月ごとの速報版「データこうべ：月別各種統計表」などもあります。刊行物を発行せず、ホームページでのみ公開される行政資料も多くなっています。

『国勢調査報告』

総務省統計局

5年ごとに国(総務省統計局)が行っている人口・世帯調査の結果をまとめたものです。大正9年(1920)から実施されました。都道府県・市区町村編が、地域ごとに12分冊されていて、兵庫県は⑧近畿Ⅱに掲載されています。

『兵庫県統計書』

兵庫県企画県民部ビジョン局統計課編 兵庫県統計協会

兵庫県に関係する基本的な統計を収録したものです。市区町別にみられる項目もあります。巻末の付録に歴代兵庫県知事の一覧や市町村合併経過などが掲載されています。

『神戸市統計報告』

神戸市 1948年～

国勢調査、工業統計調査などの各種調査から神戸に関する集計・分析結果が掲載されています。『統計情報』、『神戸市統計月報』、『統計神戸』、『神戸市統計報告』と誌名が変遷しており、平成30年で休刊となりました。これ以降は神戸市ホームページの「データこうべ」等で公開されています。

『神戸市統計書』で調べてみました！

問① 神戸市の過去 50 年について、人口の推移が知りたい。

答 明治 22 年(1889)からの市全体の世帯数、人口が一覧で掲載されています。
また、区別に直近の4年間と、昭和 25 年(1950)から5年ごとの統計が掲載されています。
(『令和2年度版』「3-1.人口の推移」「3-2.面積、世帯数及び人口等」)

問② 神戸の物価は他の都市に比べて高い？安い？

答 全国平均を基準(=100)とした、都道府県庁所在市及び政令指定都市など 52 市の年平均の消費者物価地域差指数が掲載されています。令和2年を見ると、神戸市は 100.9 で 31 番目となっています。最高値は東京都区部の 105.4、2番目は川崎市の 105.2、最低値は前橋市の 96.7 です。

京阪神では、総合指数は神戸市が最も高く、食料指数では、神戸市が最も低くなっています。
(『令和2年度版』「15-7.消費者物価地域差指数」)

調べてみよう！

- * 神戸市の鉄道の駅で、一番利用されている駅は？
- * 神戸市では、キャベツと小松菜どちらの畑が広い？
- * 明治 40 年に、市議員は何人いたの？

まずは、紹介されている参考図書を調べてみましょう！

神戸市や兵庫県に関する資料は、中央図書館2階「神戸ふるさと文庫」へお越しください。

図書館の本は、本の背に内容がわかるよう分類ラベルが貼ってあります。



紹介した統計書は、行政資料の棚(書架分類「Y」兵庫県行政資料、「Z」神戸市行政資料)や統計の棚(書架分類【351】【358】)を探してみてください。

わからないことがあれば、何でもお気軽に図書館員におたずねください。